

(第6条関係)

事業概要書

事業名	外国人市民と日本人市民の多文化共生事業
団体名	AAI
事業担当課	文化観光国際課

取り組もうとする松戸市のテーマ（課題）	<p>松戸市で実施している市民意識調査の結果をみると、外国籍市民との交流機会について、「大変よくある」「しばしばある」「ときどきある」と答えた人の合計の割合は、調査を開始した平成13年が11%でしたが、27年でも11.2%と、ほぼ変化していません。</p> <p>上記の調査結果からも外国籍市民と日本人成人市民との交わりが極めて少ないと思われます。このような「日本人住民」と「外国籍住民」の関係性の希薄化は、「ゴミの日がわからない」・「回覧板が読めない」・「町会費を払いたくない」というように市民生活を営む上での最低限の理解が進まず、地域トラブルに発展することが懸念されます。</p> <p>外国籍市民が増えている現状において、互いの存在に無理解・無関心でい続けることは不可能であり、将来の対立・衝突・孤立を生み出してしまうこともあり得ます。</p> <p>2020年東京オリンピック・パラリンピックを控え、東京に隣接する松戸市として、外国の文化に触れ、互いの違いを理解し、共生意識をもった市民を増やすことが課題であると考えます。</p> <p>解決に向けて行動しない限り状況の改善は困難であり、外国籍市民と共生できる市民の育成を行いつつ、早急に改善方法を模索する必要があると思います。</p>
事業の目的	<p>本事業は、参加者が既存の自己文化を俯瞰し多文化共生意識を促進することを目的とします。様々な社会的背景を持った参加者が一つの目的に向かい、協働作業を行う「場」と「機会」を設け、それまで参加者が当然だと思っていた自分の考え方や行動基準を俯瞰できるように促し、多文化共生意識の促進を目指します。そして最終的に、プロジェクトに参加した松戸市民それぞれが、地域文化コーディネーターとして活躍できるようサポートします。</p>
事業内容	<p>目的を達成するための手段として私たちは「演劇を通じた協働作業」と「省察」をプログラムしたワークショップを行いたいと考えております。演劇はコミュニケーション能力養成に有効であり、また行動を俯瞰する力(省察＝リフレクション)は多文化理解に必要だと思われるからです。</p> <p>本事業は、参加者が演劇作成という共通の目標のために協働し、摩擦や交渉という経験をし、そしてその摩擦や交渉をもとに参加者自身の感情・行動・発言を振り返るものです。</p> <p>参加者は演劇を通して、以下の学びを得ます。</p> <p>① 立場を変えて自分自身ではない役割を演じる(自分ではないものになれる自由さがある)</p>



	<p>② 対立と葛藤を経験する(擬似的であるが故に客観性もてる)</p> <p>③ 物語・設定を通して相手と関わり続ける(コミュニケーションの創出) つまり、参加者はコミュニケーションによる共通体験を通し互いの理解を深め、市民生活を疑似体験できます。これによって、松戸市民として互いによりそい、住みやすい世界を作る仲間づくりのきっかけを創出できます。</p> <p>一例として、 日常のなにげない動作・表情に焦点を置いて、待合せの場面(時間の感覚の違い：遅刻など)やトラブル発生時の対応の仕方の違いを表した場面をそれぞれ演じてもらう、などが挙げられます。</p>
協働の必要性	<p>&lt;協働の必要性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人の地域社会への受入れという行政サービスを提供する役割を担うのは主として自治体のため、松戸市の協働事業ということが参加者にとって「安心・安全な場」とであると認識されやすくなります。</li> <li>※これは日本人市民にとっても同様と考えられます。</li> <li>・プログラムを作成する段階で、松戸市の外国籍市民の人数や統計、法律知識などのサポート、ワークショップの開催地の助言などを享受できます。</li> <li>・地域の学生等も交えた展開が出来れば、多文化共生と併せて学びの場、しいては町づくりにも発展すると考えられます。</li> </ul> <p>&lt;効果&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の活動を通して、外国籍市民の現状・動向などの情報を取得できるようになります。</li> <li>・外国籍市民との交流の機会が増えることで、市民の不安を緩和しトラブルの減少につながります。</li> <li>・外国人住民が地域生活で抱えている問題は、同じような文化的・社会的背景を有する外国人市民が一番理解できるため、地域の外国人市民のコーディネータが生まれるチャンスがうまれます。</li> <li>・自治体のみでは対応に限界のある相互互助活動に繋がります。</li> </ul>
事業の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者に「参加して良かった」という経験をもたらすこと。</li> <li>・参加者に自身の行動や考え方に対する「気づき」をもたらすこと。</li> <li>・日本人参加者も外国籍市民参加者も、人と人との懸け橋になる地域コーディネータとして活躍できるようになること。</li> </ul> <p>4回のワークショップを各30名で行う計画を立てています。 実施後のアンケートにおいて、「参加して良かった」「気づきがあった」という回答が半数を超える事を目標にします。</p>



(第6条関係)

## 事業の予算概要

【労力換算（限度額算入）】

(単位:円)

区分	科 目	金 額	積算内訳
団体	労力換算額 (A)	¥ 373,848	

【収 入】

区分	科 目	金 額	積算内訳
団体	会費	¥ 5,000	対象事業費の一部を団体の会計より拠出
	寄付	¥ 33,200	
	参加費	¥ 24,000	200円×30名×4回
	自己資金の合計額 (B)	¥ 62,200	
市	協働事業負担金 (C)	¥ 293,400	
	合計額(D)=(B+C)	¥ 355,600	

【支 出】

区分	科 目	予算額	積算内訳
負担金の交付対象経費	報償費	¥ 100,000	イベント外部講師謝礼 25,000×4回
	報償費	¥ 96,000	イベント外部スタッフ謝礼(打合せと本番) 4h×1,000円×4回×6名
	使用料及び賃借料	¥ 62,000	イベント会場使用料 10,000×4回 (リハーサル・打合せ) 3,000×4回 編集用機材使用料 他
	印刷製本費	¥ 14,000	チラシ、ポスター 5円×2,000枚 100円×40枚
	食糧費	¥ 12,000	お茶・お菓子 3,000円×4回
	消耗品費	¥ 36,000	テキスト・材料代 300円×30セット×4回
	保険料	¥ 6,000	ボランティア行事保険料 全国社会福祉協議会の保険を検討中 : 30人×50円/人×4回 (イベント他)
		対象経費の合計(E)	¥ 326,000
その他経費	交通費	¥ 29,600	会員の交通費 一日400円 5人×8回、 4人×4回、3人×6回
		その他経費の合計額(F)	¥ 29,600
	合計額(G)=(E+F)	¥ 355,600	

【チェック項目】

- 1 協働事業負担金 (C) が、対象となる経費 (E) 欄の90%以内であること。
- 2 協働事業負担金 (C) が、自己資金 (B) 欄に労力換算額 (A) 欄を加えた額を超えないこと。
- 3 協働事業負担金については、50万円を上限とする。



# 労力換算計算書

(単位:円)

項 目		換算額	積算内訳
労力換算額	活動計画		人数×時間回数×842円
	プログラム企画打合せ (6回)	60,624 円	3 人 × 4 h × 6 回 × 842 円
	プログラムリハ (4回)	84,200 円	5 人 × 5 h × 4 回 × 842 円
	プログラム準備・買出し (4回)	40,416 円	3 人 × 4 h × 4 回 × 842 円
	プログラム活動 (4回)	134,720 円	5 人 × 8 h × 4 回 × 842 円
	振り返り (4回)	53,888 円	4 人 × 4 h × 4 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
			人 × h × 回 × 842 円
	合 計 (A)	373,848 円	